

**第 51 回アフリカ開発銀行・第 42 回アフリカ開発基金年次総会 日本国総務演説
(平成 28 年 (2016 年) 5 月 24 日 (火) 於：ザンビア ルサカ)**

議長、総裁、各国総務各位、並びにご列席の皆様、

第 51 回アフリカ開発銀行 (AfDB)、第 42 回アフリカ開発基金 (AfDF) 年次総会にあたり、日本政府を代表して、ご挨拶申し上げることを光栄に思います。そして、今次会合のホスト国のザンビア政府及びルサカ市民の皆様の暖かい歓迎に感謝申し上げます。

アデシナ総裁就任後初の総会に際して、アフリカ地域の経済開発において日本が AfDB に期待する役割、日本と AfDB の一層の協力の強化を中心に日本の考え方を述べさせていただきます。

1. AfDB に期待する役割

日本は、従来より、アフリカの経済開発における AfDB の役割として、インフラ、地域統合、民間セクター開発を重視しています。アデシナ総裁は、就任後早々、AfDB の 2013-2022 年長期戦略における 5 つの優先事項として「High 5」－「アフリカの電化」、「アフリカの食糧増産」、「アフリカの地域統合」、「アフリカの工業化」、そして、「アフリカの人々の生活の質の改善」－を提唱しました。これは、日本が重視する分野と整合性がとれており、日本として高く評価しています。また、「High 5」の遂行に必要な組織体制を構築するためにアデシナ総裁が打ち出した、地域事務所への業務の分権化、業績に基づく能力評価の改善、貸出金利の引上げ等の広範な組織改革についても、日本は支持します。

2. AfDB と日本の協力強化

アフリカが持続的な経済成長を実現していくため、日本は AfDB と連携して、以下の点を中心に取り組んで参ります。

(質の高いインフラ投資の推進)

2015 年に安倍総理は「質の高いインフラパートナーシップ」を表明しました。質の高いインフラとは、ライフサイクルコスト、安全性、自然災害に対する強靱性、環境・社会配慮基準、ノウハウの移転等を十分に考慮したインフラであり、日本は、このコンセプトの重要性を様々な場で唱えています。アフリカでは、AfDB と協力して、

日本政府、JICA、AfDB との協調融資枠組みである EPSA (Enhanced Private Sector Assistance for Africa) を通じて、質の高いインフラ投資を推進していきます。EPSA の下で質の高い案件が組成できるよう、AfDB に設置している FAPA 信託基金 (Fund for African Private Sector Assistance) を通じて、案件の上流段階からの支援を強化して参ります。また、AfDB が「バリュー・フォー・マネー (Value for Money)」の概念を盛り込んだ新しい調達ポリシーを着実に実行に移し、より質的側面に配慮してインフラ案件を推進することを期待します。

(第 6 回アフリカ開発会議 (TICAD VI))

次に、アフリカにおける持続的かつ包摂的な成長を進めるためのアフリカと日本とのパートナーシップ枠組みであるアフリカ開発会議 (TICAD) について申し上げます。前回の 2013 年の第 5 回会議 (TICAD V) では、AfDB に設置している FAPA 信託基金及び PHRDG 信託基金 (Policy and Human Resources Development Grant) を活用し、中小企業の資金調達の円滑化、及び世界税関機構 (WCO) と連携したアフリカ諸国の税関の能力向上を支援するため、5 年で 25 百万ドル相当の貢献を行うことを発表いたしました。現在、約 13 百万ドル相当の支援を実現しており、引き続き支援を継続して参ります。

第 6 回目となる TICAD VI は、本年 8 月 27、28 日に、アフリカで初めてナイロビにおいて開催されます。多くの日本企業がアフリカを訪れますので、アフリカの人々にとって日本の技術に直接触れ、知っていただくよい機会となります。日本は、官民の緊密な連携の下、アフリカの民間セクターの更なる発展に資するよう積極的に取り組んでいきます。

(アフリカ開発基金 (AfDF) 第 14 次増資 (AfDF-14))

過去 10 年、高い経済成長を続けてきたアフリカ諸国ですが、サブサハラ地域を中心に、依然貧困から抜け出せない地域が多く残っております。AfDF は、最貧困国における貧困削減及び経済・社会開発に極めて重要な役割を果たす必要があります。AfDF は、アフリカの持続的かつ包摂的な成長の達成に向けて鍵となる、インフラ、地域統合、民間セクター開発を引き続き重視していくべきです。日本は現在行われている AfDF 第 14 次増資交渉に積極的に参画していきます。アフリカ諸国の資金需要の高まりとドナー国が直面する厳しい財政状況の中、今次増資において融資貢献等の革新的な貢献手法が検討されていることを歓迎いたします。

(信託基金を通じた技術支援・人材育成)

技術支援・人材育成支援について申し上げますと、成長の質を高め、アフリカの人々が主導する包摂的な成長を実現するため、日本は AfDB に設置している二つの信託基金（FAPA、PHRDG）を通じた技術支援・人材育成をサポートしています。例えば、FAPA による技術支援として、中小零細企業の重要な資金源であるマイクロファイナンスの適切な発展支援のため、マイクロファイナンスの管理監督体制の強化のための研修を、2014 年 12 月にザンビアで、また本年 3 月にはケニアで実施いたしました。

（アジア代表事務所（ASRO））

最後に、日本は AfDB が東京に設置している唯一の域外国事務所であるアジア代表事務所（ASRO）の活動を高く評価しています。特に、民間企業が持つ知見を活用する観点から、日本としては、2014 年 6 月に ASRO が開催した、「日本—アフリカビジネスフォーラム」のような日本・アジアの民間企業とアフリカ及び AfDB とのビジネス・マッチングの機会を設けることを今後も支援して参ります。

3. むすび

最後に、日本の主なメッセージを再度申し上げます。アフリカの持続的かつ包摂的な発展は世界経済の健全な発展にとって不可欠であり、言うまでもなく、アフリカ随一の金融機関である AfDB の役割は極めて重要であります。私は、アデシナ総裁の強力なリーダーシップの下で AfDB がアフリカの潜在的な成長力を引き出していくと確信しています。日本は、アフリカを持続的かつ包摂的な成長の軌道に乗せるために一層取り組む AfDB を強く支持します。

我々すべての日本人は、アフリカの輝かしい可能性を信じています。

共に歩みましょう。

我々の一歩一歩がアフリカの人々の一つ一つの幸福に結実していきます。

ご清聴有難うございました。

（以 上）